

研究会・シンポジウム報告

2019年7月30日（火） 夏季実態調査 事前勉強会報告

テーマ： 北陸の産業・経済・地域の現状と戦略－富山・石川を中心に

報告者： 藤沢 和弘氏（一般社団法人 北陸経済研究所調査部担当部長）

時間： 15：00～17：00

場所： 生田キャンパス 2号館 225 教室

参加者数：16名

報告内容概略：

本研究会は、社会科学研究所にて2019年9月2日～6日に予定されていた「北前船の足跡をたどる Part3－北陸：佐渡～富山石川－」実態調査の事前研究会として開催されたものである。特に、富山では2日間の調査をすることになっており、コンパクトシティ体験や富山市役所をはじめ、県内の主力企業であるYKK、能作など地場の有力な新しいことに取り組んでいる企業を訪問することが決まっており、富山県全体の現状について知りおく必要があった。そのため、今研究会の講師として、一般社団法人北陸経済研究所調査部担当部長である藤沢和弘氏にお越しいただいた。

当日の研究会では、まず、藤沢氏から富山県を含めた北陸地域の産業経済動向と産業振興政策について説明があった。その後、富山県内の産業構成とわれわれが訪れる製造業の状況について、北陸新完成開業後の県内の細かな変化や人口の移動など、さまざまな視点から実態調査に対する示唆が得られた。特に規模としては小さな存在に過ぎないが、大企業のサプライチェーンの一角をなしている企業や今後成長していくであろう小規模企業の動向についても詳しく説明をいただいた。

その後、出席者からは上記のような現状に対する富山県を含めた北陸地域での施策内容を中心とした質問が多く出され、意見交換も含めて活発な議論がなされた。

記：専修大学商学部・石川和男

2019年11月9日(土) 定例研究会報告

専修大学社会科学研究所・経営研究所・檀国大学 第11回合同研究会

テーマ：Economic Democracy in Japan and South Korea

Session 1

Presentation I “The Effect of International Trade on Income Inequality”

Presenter : CHOI, Chang-Hwan (檀国大学)

Commentator : 矢野貴之所員 (経済学部教授)

Presentation II 日本における産業民主主義の危機と再生

Presenter : 兵頭敦史所員 (経済学部教授)

Commentator : JEONG, Yoon-Se (檀国大学)

Session 2

Presentation III “The Effects of Mental Budgeting and Pain of Paying on the Financial Decision Making of Socially Excluded People”

Presenter : CHUN, Sung-Yong (檀国大学)

Commentator : 目黒良門氏 (経営学部教授)

Presentation IV 「働き方改革」における労働政策上の特徴ー ジョブレス・ウェイジレス・リカバリーと「労働生産性」の検討を通じてー

Presenter : 山縣宏寿所員 (本学経済学部准教授)

Commentator : YIM, Sang-Hyuk (檀国大学)

時間：13:00～17:50

場所：専修大学神田校舎国際会議室

参加者数：18名

報告内容概略：

第11回を数える檀国大学との合同研究会のテーマは「日本と韓国における経済デモクラシー」で、双方から2名ずつの報告を行った。CHOI報告は国際貿易ならびに海外直接投資の所得不平等に及ぼす影響を、兵頭報告は産業民主主義が世界的に困難な状況下での日韓比較を、CHUN報告は社会的に排除された人々の消費・投資選考を、山縣報告は「働き方改革」が孕む致命的な矛盾を明らかにし、襻掛けでコメントを双方から提出し、議論を深めていった。

安倍・文政権間の関係が悪化する中、着実な学術研究交流の実績をまた一歩進められることができた。

記：専修大学経済学部・宮寄晃臣